

第 37 回大学等環境安全協議会総会・研修発表会

実務者連絡会研修会報告

工学部ものづくり技術教育支援センター

(環境・分析技術開発支援室)

大西 喜弘

令和元年 7 月 17 日(水)に新コスモス電機株式会社 コスモスセンサセンター(兵庫県三木市吉川町上荒川)の見学会が開催されました。

新コスモス電機(株)は、大阪に本社を置き、北海道から九州に至る主要各都市に支社・営業所等を設け、家庭用ガス警報器、携帯用ガス検知器、工業用ガス検知警報器、火災警報器、ニオイセンサ等製品の研究、開発、製造、販売を展開している会社です。コスモスセンサセンターはセンサ生産と技術開発を行う拠点になっています。製造ラインの見学コースをはじめ、ショールームなども併設されており、ガスセンサの中核施設となっています。

先ず会社案内から始まり、実験などを含めた講習を受講しました。キットを使った爆発範囲の実験及び使い捨てカイロを用いた酸素濃度計の実験は非常にわかりやすく面白く体験でした。

次に工場見学を行いました。工場内は半導体を扱う工場だけに設備が整然と並んでおり、とてもきれいで作業的にも良い環境でした。また品質管理の徹底に尽力されており、オートメーション化もされているが、一部重要な部門では人の手を入れながらの生産がされており、部門間の連携が非常に重要なものづくりであると感じました。

とても勉強になる事が多く有意義な見学会でした。



令和元年度東海地区国立大学法人等係長研修 参加報告

工学部ものづくり技術教育支援センター

(環境・分析技術開発支援室)

大西 喜弘

令和元年 7 月 18 日(木)～7 月 19 日(金)に名古屋大学において、係長(専門職員)に昇格した職員に対して、職場のリーダーとして必要なスキルを修得させるとともに、OJT の重要性を理解させ、係長(専門職員)としての役割を担うために必要な知識を修得させることを目的として「令和元年度東海地区国立大学法人等係長研修」が開催されました。

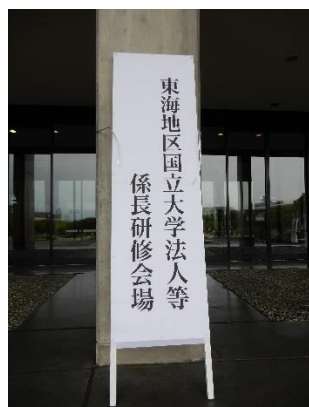
東海地区の国立大学 8、研究機関 3、高等専門学校 5 の合計 16 機関から 79 名の参加がありました。

研修内容について

- 1 日目 午前「部長が期待する係長の役割」 ～名古屋大学総務部長・宮川勉～
「ワークショップ」 ～名古屋大学理事・事務局長～
午後「係長としての自己理解」 ～係長はどんな存在か～
「エゴグラムから心の状態を知る」 ～自分と性格傾向・課題への向き合い方～
- 2 日目 午前「TA によるリーダーシップの発揮」 ～係長のリーダーシップ・コミュニケーション～
「仕事と役割分担」 ～仕事コミュニケーションを体感する～
午後「人材育成とモチベーション」 ～育成コミュニケーションを体感する～
「プレゼンテーション」 ～研修での学びをどう生かすかを言葉で伝える～

講義を聞くだけの研修ではなくグループに分かれて実際に体験して学んでいくグループワークが中心の研修であったので研修で学んだことを即座に実際の業務に活かせる内容でした。また研修の前に事前課題が二題あり、それについても研修中のグループワーク内で、取り上げられていて実際の業務に即した内容でした。

また日頃交流することのない他大学等の職員の方とも積極的に意見交換が行えたので大変有意義な研修となりました。



令和元年度東海地区国立大学法人等係長研修 参加報告

工学部ものづくり技術教育支援センター

(環境・分析技術開発支援室)

大西 喜弘

令和元年 7 月 18 日(木)～7 月 19 日(金)に名古屋大学において、係長(専門職員)に昇格した職員に対して、職場のリーダーとして必要なスキルを修得させるとともに、OJT の重要性を理解させ、係長(専門職員)としての役割を担うために必要な知識を修得させることを目的として「令和元年度東海地区国立大学法人等係長研修」が開催されました。

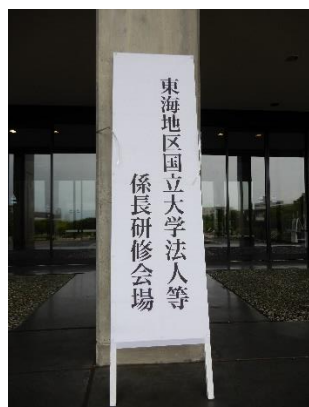
東海地区の国立大学 8、研究機関 3、高等専門学校 5 の合計 16 機関から 79 名の参加がありました。

研修内容について

- 1 日目 午前「部長が期待する係長の役割」 ～名古屋大学総務部長・宮川勉～
「ワークショップ」 ～名古屋大学理事・事務局長～
午後「係長としての自己理解」 ～係長はどんな存在か～
「エゴグラムから心の状態を知る」 ～自分と性格傾向・課題への向き合い方～
- 2 日目 午前「TA によるリーダーシップの発揮」 ～係長のリーダーシップ・コミュニケーション～
「仕事と役割分担」 ～仕事コミュニケーションを体感する～
午後「人材育成とモチベーション」 ～育成コミュニケーションを体感する～
「プレゼンテーション」 ～研修での学びをどう生かすかを言葉で伝える～

講義を聞くだけの研修ではなくグループに分かれて実際に体験して学んでいくグループワークが中心の研修であったので研修で学んだことを即座に実際の業務に活かせる内容でした。また研修の前に事前課題が二題あり、それについても研修中のグループワーク内で、取り上げられていて実際の業務に即した内容でした。

また日頃交流することのない他大学等の職員の方とも積極的に意見交換が行えたので大変有意義な研修となりました。



静岡大学技術報告会 参加報告

工学部 ものづくり技術教育支援センター

大西 喜弘

第25回静岡大学技術報告会が令和元年12月25日(水)10:00～ 静岡大学 浜松キャンパス 佐鳴会館会議室にて開催されました。

静岡大学は、静岡キャンパスに「人文社会学部」「教育学部」「理学部」「農学部」の4学部を有し、浜松キャンパスに「工学部」「情報学部」の2学部を有し、合計6学部を有しています。技術報告会の開催地は静岡キャンパス、浜松キャンパスが隔年で交互に開催しており本年度は浜松キャンパスで開催されました。静岡大学は技術部長(理事)を長として静岡キャンパスに教育研究第二部門、情報部門、フィールド部門、浜松キャンパスに教育研究第一部門、機器分析部門、情報部門、ものづくり部門が設置されています。

特に印象深かった発表が「茶の加工とホットプレートを用いた手もみ体験」(静岡大学技術部フィールド部門)の発表で、静岡と言えばお茶と言われるほど有名な特産物であるお茶を使った地域貢献活動の紹介があり、実際に茶畑で茶摘みを行い、摘んだお茶葉をホットプレートを使用して製茶の体験を行うというもので、ホットプレートを使うと製茶が2時間位で出来るので、体験学習としては丁度良いと思いました。また自分で製茶した茶葉の試飲がその後に行われ、皆一様に「自分で製茶したお茶は格別おいしい」との感想を言われるとのことでした。

他大学等の発表として、三重大学から1名、浜松医科大学から3名の発表があり、特に静岡大学と浜松医科大学は法人統合の話が進んでいるので、技術職員の交流も活発に行われているのだと感じました。

